



【新型コロナウイルス感染症対策として、アルコール消毒液の設置、マスクの着用、ソーシャルディスタンスを取って行われた】

職場の中心で闘おう

第25回 長崎地区本部定期大会

第25回国労長崎地区本部定期大会が12月6日、九州労働金庫長崎支店4階会議室で開催された。大会構成員のほか関係者約20人が参加し、2021年度の運動方針が採択された。

大会は、神近副委員長が開会を宣言し、山口代議員（長崎工務センタ）を議長に選出し議事を進行した。豊田執行委員長は、コロナ禍の中、来賓を制限した事に理解を求め、厳しい結果となった衆院選を総括し来年の参院選に活かしていこうと挨拶。また「10月からの3両・4両ワンマン運転は車掌の要員削減と運転士の労働強化になっている。来年秋の西九州新幹線の部分開業で更なるワンマン運転の拡大で要員削減が危惧される」と危機感を表し、ボーナスについては「3度目の低額回答に他労組の若い組合員に不満が出ている。職場では国労運動が見える取り組みを強化しよう」と職場運動の再構築を訴えた。

年末手当1,32カ月 3期連続の低額回答

JR九州は11月26日、年末手当について各組合に回答した。基準額は、基準内賃金の1.32カ月分。嘱託再雇用社員は、雇用期間3年以上0.99カ月、一時金0.26カ月。同3年未満0.66カ月、一時金0.59カ月。

国労は、「会社存続のために身を切る改革を受け入れた社員への恩をまたしても仇で返した。株主配当は減配せず、社員にだけ負担を強いる回答には到底納得できない。持ち帰り検討」(2021年11月26日付 国労九州本部 No.6)とした。(Y)

の交渉について、5カ月プラス一律10万円の要求をもって交渉した経緯と、3期連続の低額回答で「のべ約1,700人が会社の貸付制度を利用して」と会社の現状を報告。組織対策では、「各エリア本部でまず一人」を目標とし、「今年度車掌や工務の職場で若い社員が10人以上会社を辞めている、若い社員と話をし、悩みを聞いてもらいたい、まず一歩踏み出そう」と訴えた。また「国労は少数だが職場の隅に座る必要はない、中心に座り問題をしっかりと掴んでほしい」と挨拶した。

討論では、列車内トイレの石鹸水の補充について(秀島)、原爆慰霊碑移設の進捗状況と年末手当の妥結額について(米満)、サービスサポートの経費削減と65才以上の労働条件について(岩崎)の発言があった。大会宣言が採択され、豊田委員長「団結頑張り」で散開した。(Y)

2021年度長崎地区本部役員

- | | |
|--------|--------|
| 執行委員長 | 豊田 照二 |
| 副執行委員長 | 神近 史宣 |
| 書記長 | 上之濱 裕二 |
| 執行委員 | 川崎 信広 |
| 執行委員 | 島 敏文 |
| 執行委員 | 御所 義治 |
| 執行委員 | 島田 徹 |
| 執行委員 | 宇都宮 篤志 |
| 会計監査 | 荒木 義弘 |
| 会計監査 | 依坂 正登 |